

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

- ◇児童数280名、学級数10学級、特別支援児童数20名（学習障がい傾向6割、不登校児童3名（5年2名、6年1名）。素直。金管バンド、スポーツ大会は積極的である。学習規律と基礎基本の定着に課題がある。
- ◇教員数18名（本校初任8名）、日々の教科指導や分掌業務を真面目に実践している。授業力の向上と組織的協働が課題である。
- ◇経営課題 ①学力向上…区学力調査等の結果を基に、授業改善や基礎基本の定着を目指し家庭学習の習慣化。
②生活・学習規律の徹底…「北鹿スタンダード」を全校で継続実施し、指導内容の統一・徹底。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 基礎学力の向上**

- ◇授業力及び職務遂行能力の向上（公開授業・巡回指導授業等の実施 1名10回）。
- ◇基礎学力の確実な定着（朝学習3回/週、放課後補習3回/週、サマースクール10回）。
- ◇読む力（読書）の伸長（朝5分読書3回/週、読書月間2回/年）
- ◇学習成果コンテストの実施（漢字・計算コンテスト実施、プレテスト・表彰実施による意欲化）。
- ◇学習習慣・規律の確立（学年ごとの宿題量設定、学習規律の全校徹底、家庭への協力依頼）。

重点的な取組事項－2 小中連携・幼保小連携の充実

- ◇菜の花中学校・北鹿小・鹿西小・五色桜小との合同研修会（10分科会、4校合同授業研3回、指導案検討会3回、全体研修会2回の実施）。
- ◇4校校長・研究主任による組織的・計画的な運営。
- ◇各種交流活動（金管バンド合同演奏会、授業体験、部活動体験）の充実。
- ◇年長児との交流活動強化（1年・5年との交流）。参観交流の充実（水泳委・授業・行事等）。子育て講演会1回実施。

重点的な取組事項－3 安心・安全を基調とした学校づくり

- ◇いじめ防止委員会によるいじめ防止への取り組み（相談ボックス設置、スクールカウンセラーの活用等）。
- ◇特別支援教育の充実（校内支援委員会1回/月、SCや関連機関との連携）
- ◇各種安全教室実施（セーフティ、薬物乱用防止、ネット犯罪防止、不審者対応等の各教室）。
- ◇豊かな言語環境づくり（あいさつ運動の実施、正しい言葉遣い、発表時の話形等の徹底）。
- ◇教職員の働き方改革の推進（出退勤時刻の週案記入、ノー残業デー1回/月、会議等の精選）

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 基礎学力の向上**

- ◇今年度の本校の通過率は78.5%（区78.7%）。公開授業・研究授業や区巡回指導、OJTを活用して足立スタンダードに基づく授業のさらなる徹底。
- ◇補充指導の継続と充実（朝読書・朝学習3回/週、放課後補習3回/週、サマースクール10回）。
- ◇区学力調査結果を基に学習内容を焦点化し、朝学習・放課後学習やそだち指導とも連携を図り、中・下位層児童の学力向上。補充指導の年間計画や個人カルテを作成し、個に応じた指導を実施したい。
- ◇学習習慣・規律の確立（学年ごとの宿題量設定、学習規律の全校徹底、学習成果コンテスト等のさらなる活用、家庭学習の習慣化を家庭へ協力依頼）。
- ◇学力向上策の推進に向けた全職員の意思統一（異動者、新規採用教員への指導を徹底）。

重点的な取組事項－2 小中連携・幼保小連携

- ◇小中連携のさらなる充実（1校増え5校に拡大。校長・研究主任の意思統一と組織的運営）。
- ◇幼保小連携事業のさらなる充実（担当者会議実施による連携の組織化）。

重点的な取組事項－3 安心・安全を基調とした学校づくり

- ◇特別支援教育の充実（校内体制の明確化・整備、校内支援委員会1回/月、SCや関連機関との連携）。
- ◇いじめ・不登校対策の取組（いじめ・不登校防止委員会の組織的運営、SCや外部機関と連携等）の継続と徹底。
- ◇豊かな言語環境づくり（あいさつ運動の実施。正しい言葉遣い、読書環境の整備。）の継続と徹底。
- ◇教職員の働き方改革への取り組み（職務内容の精選、さらなる組織化、勤務時間の適正管理等）

(4) 保護者や地域へのメッセージ

- ◇保護者会や学校公開週間の一層の参加をお願いします。今後も子供達の頑張る姿に応援の声掛けと豊かな関りをお願いします。また、アンケートをとおしてご意見やご要望をお寄せいただきたいと思います。年間を通して、各種ボランティア（図書、登下校の見守り、花いっぱい、学習等）を募集中ですので、ぜひご協力ください。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 基礎学力の定着

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
授業、補充学習、家庭学習の改善を推進し、基礎学力の向上と、最後まで粘り強く学習に取り組む姿勢を養う。	4月実施 = 75% 12月再実施 = 85% を目標とする。	4月実施 78.5% 12月再実施 90.5% 2月実施結果 70.0%	学級経営を基盤に集団で学力を伸ばす。児童が「考える授業」に改善し学習意欲をもたせ、家庭学習へつなげていく。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教師力・授業力の向上	◇公開・巡回授業等10回実施。 ◇スタンダード授業の100%実施。 ◇分掌上の職務を確実に遂行。	◇小中連携研・巡回指導に加え、OJTや学び合い授業を定期的実施。 ◇役割分担を明確化し、教務・生活・研究の統括主任のもと担当者が責任をもって職務遂行する。	◇公開授業等は達成。OJTとして財団講師による体育授業研修を実施できた。 ◇各分掌の職務は齟齬なく遂行できた。	◇今後はOJTを日常的に位置付け、校内研究「学び合い授業」を計画的に実施していく。 ◇スタンダード授業で学習の仕方を定着させる	○
各種資料分析による個人カルテ作成と指導	◇年3回の区調査実施と分析、個票の作成と補習の実施。	◇SP分析、個票を活用した補習実施。	◇12月再実施は90.5%を達成。	◇区調査未達成者を中心に作成したカルテを有効活用する。	○
朝学習、放課後補習等、補充学習のさらなる充実	◇週3回、各15分間実施。 ◇週3回、15:15～15:45実施。 ◇火・木・金実施	◇国算を学年の実態に応じ実施。 ◇区調査分析による3段階習熟度別補習（個人・少人数での指導）を実施。 ◇日々の学習の補習には即時に対応していく。	◇予定通りに実施。 ◇放課後補習はボーダー層と下位層2段階で実施。	◇放課後補習は年間計画に基づいて実施した。日々の学習に関する補習時間が確保できた。	○
そだち指導、基礎学習教室	◇習熟度に応じた適切な個別・少人数指導を規定回数実施。	◇区調査分析により対象児童を適切に選定、基礎的事項の定着、学習意欲と自信の伸長を図る。	◇計画通り、規定回数を実施できた。	◇そだち指導を受けた児童の伸び（単元テスト、区調査）が認められた。	◎
サマースクール	◇夏季休業中に10回実施。	◇個の課題に応じて、担任以外の教員が少人数で、担任が個別で指導。	◇計画通りに実施。	◇習熟度別にグループ分けし、ベーシックドリルで判定しながら、基礎学力の定着を図る	△
読む力（読書）	◇週3回の朝学習前に各5分間実施。 ◇読書月間の2回実施。	◇脳を活性化させ、1校時から授業に集中して取り組める環境を整える。 ◇各学年の目標読書量を定め、達成者を表彰する。	◇朝読書実施は、ほぼ定着した。 ◇読書月間は2回設定。表彰した。	◇家庭学習に読書・調べる学習を取り入れ習慣化を図る。 ◇図書館支援員や読み聞かせボランティアの活用を図る。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習成果コンテスト（国算）	◇正答率80%以上の児童を80%とすることを目標。	◇基礎的問題を夏季・冬季休業明けに実施。 ◇家庭学習の習慣化を図る。実施状況のチェック体制も強化する。	◇計画通り実施。 ◇国語は達成率をクリアできた。	◇計算力に課題がある。全校統一の計算プリントを月1回実施し、上位者を計算王に認定し意欲付けを図る。	○
宿題・家庭学習	◇低学年＝30分以上 ◇中学年＝45分以上 ◇高学年＝60分以上	◇音読・視写・漢字・計算を中心に、予習・復習を意識した内容を課し、家庭学習の習慣化を図る。	◇学年統一の課題を課した。下位層の児童には課題の量を調整した。	◇宿題未提出者は固定化。「家庭学習のてびき」を作成し啓蒙を図る。	○
学習規律・生活規律	◇北鹿スタンダード（学習規律）の100%徹底。 ◇生活規律（学校のきまり）の徹底。	◇日常授業をとおして、北鹿スタンダードの学習規律を徹底する。 ◇4月を強化月間とし、「北鹿スタンダード」「学習の約束」の徹底を図る。家庭の啓発も図る。 ◇連携校同士が同一歩調で指導できるよう、学習規律・生活規律の指導内容の統一を図る。	◇高学年の一部に持ち物等の規則が不徹底であった。 ◇連携校で指導形態を統一することができた。	◇連携小学校では規律の統一が継続している。中学校との接続を意識し、発達段階に応じた規律の徹底を図っている。	○

重点的な取組事項－2 小中連携・幼保小連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
「小中・幼保小連携計画書」に示す内容を完全実施する。	【小中】合同研修を8回実施。 【幼保小】連携活動の完全実施。	【小中】合同研修を8回実施。 【幼保小】ほぼ計画通り実施できた。	◇研修内容の厳選・充実を図る。 ◇指導方法・学習規律のさらなる徹底。 ◇幼保園との連絡調整を確実に行う。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
合同研修会の計画的実施	◇小中連携研修会を年間6回以上実施。 ◇幼保小連携研修会を年間計画どおり完全実施。	◇授業研、指導案検討会、全体会を実施。 ◇足立スタンダードに即した授業、学習規律の全校徹底を図る。 ◇各校研究主任中心に、教員の主体的な事業運営能力を高める。 ◇授業参観、交流研修2回、校長講演会、指導法研修会2回（ひらがな指導・体育指導）を実施。	◇小中連携は全員参加の研究会を6回実施。目標を達成。 ◇研究主任が中心となり、全10分科会で計画通り研究を進めた。 ◇幼保小連携は、校長講演会も実施。子どもの交流活動計画も無理なく実施できた。 ◇職員全員が集合しての研修は勤務形態の都合により未実施。	◇研修回数や分科会設定を厳選し、より効果的な連携活動を計画する。 ◇園児との交流は、発達段階を考慮して夏休み以降が望ましい。今年度は12月に実施した。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
各種交流・体験の拡充と充実	◇小中連携体験活動を4回以上、幼保小連携交流活動を8回以上(7月以降)実施する。	◇小中連携体験(体験授業、部活動体験、出前授業、金管合同演奏会等)。 ◇1年生と年長児(4回)に加え、5年生との交流(4回)を充実させ、社会福祉・社会貢献の精神を養う。	◇小中＝英語科体験授業2回。部活1回。金管2回実施。 ◇幼保小＝1年交流4回、5年交流4回実施。	◇幼保小中の連携内容は見直しつつ、回数は、30年度並を確保し継続していく。	◎

重点的な取組事項－3 安心・安全を基調とした学校づくり

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめ根絶、あいさつの徹底をとおして、「礼節・安全安心」を重んじる学校環境づくりを推進する。	保護者アンケート満足度90%を目標とする。	施設・警備・健康に関しては85%、いじめ防止に関しては90%が満足。	引き続き、満足度90%を目指す。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめの根絶	◇相談ボックスへの訴えへの即時対応。年間をとおして「いじめゼロ」を目指す。 ◇児童によるいじめ防止活動を通年で実施する。	◇年間3回アンケートを実施。訴えに即時対応する。 ◇いじめ防止委員会を中心に情報を共有し、SCの助言のもと、早期発見と解消を目指す。 ◇児童会および低学年児童による「外遊び奨励・いじめ防止キャンペーン」を実施。	◇委員会から全教員へ情報を共有し、SCと円滑な連携で対応している。 ◇中高学年はあいさつ運動、低学年は校内パトロールを実施。 ◇相談ボックスへの2件は早期対応・解消。	◇連絡会・委員会を定期的に完全実施する。 ◇いじめ防止委員会組織が中心となり、いじめの早期発見と解決をさらに徹底する。	△
児童・保護者の危機管理意識の向上	◇セーフティ教室等の安全指導講座を年間3～5回実施する。	◇関連機関と連携し、ネット犯罪防止、薬物乱用防止、不審者対応訓練等を実施する(最重要項目はネット犯罪防止とする。PTA行事でも取り組む)。	◇各教室を計画通り実施した。ネット2回、薬物1回、不審者対応1回	◇今後は、PTA校外委員や学年委員と連携し、セーフティ教室等の計画的な実施をする。	◎
言語環境の整備	◇全学年で朝の挨拶運動を毎月実施。	◇各月の担当学年による挨拶運動を実施。 ◇日常学習で、相手を尊重した話し合い活動を取り入れる。	◇挨拶運動は、月2週ずつ実施できた。 ◇話し合い活動中に発言する児童の言葉遣いは良好。	◇挨拶運動は引き続き月2週実施する。 ◇言葉遣いは学習以外の日常場面でも意識させる。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
特別支援教室の充実	◇実態把握票分析に基づき児童の実態、保護者のニーズに応じた指導を行う。	◇校内支援委員会を毎月開催。全教員共通理解のもと指導する。 ◇SC、支援センター等と連携し、専門的見地から指導の充実を図る。	◇支援委員会は計画通り実施。教員の共通理解が深まった。 ◇SCと連携し、専門的見地からの助言指導をもとに指導が展開できた。	◇SC、支援センター等との連携を強化し、保護者の啓発に努める。	○

3. 学校活動全般について

◇基礎学力の定着に向けて計画的に指導を進め、区調査等での目標値はほぼ達成している。今後もこの水準を維持していく。

◇菜の花中地区小中連携研修会（中1校・小3校）は年間6回（授業研3回）を実施。今年度は、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」をテーマに「思考・判断・表現する交流学习」を研究している。提案授業の協議や講師の指導により、連携校教員の指導方法等に関する共通理解が深まった。今後も工夫改善しながら、研究活動の充実に努める。

◇早期発見早期対応により、いじめの早期解消に組織的に取り組む。

◇28年度開始のプロジェクトチーム制について、業務内容・分担を明確にするなど見直しを行い、持続可能な組織作りを目指し充実させていく。

◇校務改善、勤務時間管理等の意識を高め、教職員の働き方改革を推進する。